

令和2年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292300019		
法人名	有限会社 ファイブワン		
事業所名	グループホームえびす いなかだて		
所在地	〒038-1141 青森県南津軽郡田舎館村大字川部字中西田30-58		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響で地域行事に参加は出来ないも、地域との連携は密に努めている。外出は出来ないも敷地内の畑で野菜・果物・山菜作りを楽しみ土に触れ、五感で季節を感じれるようにしている。二階ホール窓から見える岩木山、りんご畑、裏側では田園より四季の移り変わりを感じることが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

周囲には田んぼやりんご畑があり、窓からは岩木山を眺めることができるため四季の移り変わりを楽しめる。地域行事へ参加する以外にも、地域住民・消防団と一緒に防災訓練を行う等、地域との繋がりはとても深い。コロナ禍において様々な取り組みが制限されるなかでも「事業所として利用者のためにできること」を常時模索し、高い専門意識を持ちながら、利用者一人ひとりに寄り添って支援している。また「認知症高齢者の方々と共同生活を通し環境と暮らしを支え命を守ります」の事業所理念を共有し、実践に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の見易い場所に理念を掲示している。利用者への声掛けや対応を通し、理念の実現に向け取り組んでいる。会議開催時には、職員間で復唱しながら実践に繋げている。	毎日の引き継ぎと月1回の職員会議において理念を唱和し、共有している。地域密着型サービスの意義や役割を考え「認知症高齢者の方々と共同生活を通し環境と暮らしを支え命を守ります」という理念がケアへ反映されているか、意識付けも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外回りの掃除や畑作業の際、近隣の方と挨拶を交わし馴染みとなる。町内会に加入し防災訓練の参加やリサイクルの協力をする等繋がりを持っている。また、村の祭りに参加し交流を保っている。	現在はコロナ禍のため自粛しているが、以前は町内会のメンバーとして、ねぶたの協賛・まとい振り・空き缶拾い等の地域行事を通し、交流が盛んに行われていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村広報誌に広告を掲載し内容説明を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。村役場職員・地区民生委員・家族代表・管理者・職員が出席し、現状報告を行い意見などを聞き、サービス向上に努めている。	現在はコロナ禍のため自粛しているが、以前は2ヶ月に1回のペースで会議を開催していた。役場職員・民生委員・家族代表より意見や助言を伺い、具体的なサービス向上に活かせるよう努めていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新の際、情報提供している。運営推進会議への参加により意見交換を行い、良好な関係を築いている。年4回開催される地域ケア会議に参加し、意見交換や情報の共有をしている。	現在はコロナ禍のため開催が1回に留まっているが、以前は年4回開催される地域ケア会議にて、ホームの実情・課題の情報を共有していた。運営やケアに関する助言を貰うなど、協力関係が築けていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定規準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修会を実施し、身体拘束をしないケアを理解している。利用者の尊厳と主体性を尊重し、職員一人ひとりが身体的・精神的弊害を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。無断外出がある利用者については、見守り共に行動している。	現在、身体拘束の事例はない。定期的に事業所内研修を開催している。事業所全体で、身体拘束の内容と弊害を理解し、身体拘束をしないケアの継続に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会に出席したり、内部研修会を開催し、理解を深めている。言葉掛けにも配慮し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書にて説明を行い、同意を得ている。利用料の改定について、文書にてお知らせし、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、近況報告し、家族からの意見要望を伺っている。玄関に意見箱を設置している。定期的な来園が困難な家族には、電話等で近況報告を行なっている。運営推進会議を開催し、サービス向上に努めている。	設置している意見箱よりも、面会時や電話にて直接意見や要望を伺うことが多い。「コストを意識したおむつ使用の見直し」を実践するなど、意見や要望を運営に反映させようとする意識は高く、ケアの向上に活かそうとする姿勢が伺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職務調書を提出し、総括管理者と個人面談を行なうので、意見を話す事が出来る。また、日常的に各職員が意見・相談のしやすい環境である。	職員一人ひとりが年2回「職務調書」を作成・提出し、総括管理者と個別面談する機会を設けている。加えて、日頃から細やかにコミュニケーションを図ることで、気付きやアイデアを取り入れ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回、全事業所の管理者・提供責任者とミーティングを実施し、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や内部研修を行い、職員の資質向上に努めた育成を行っている。介護支援専門員の試験対策8月～10月。介護福祉士の試験対策10月～1月。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期であるが開催される地域ケア会議に出席し、情報を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階から話し易い関係を作り、本人が困っている事、要望などに耳を傾け、安心して生活出来るように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時より生活歴等の状況を確認しながら、家族の不安や要望に出来るだけ応えられるように対応・配慮し、話し易い環境作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人と家族のニーズに対し、何が必要かを見極め、柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、喜怒哀楽を共にし、共同生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設生活での変化や異常があった際は、家族へ連絡をとり、情報を共有し協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人外出を取り入れ、本人の思い出の場所も検討する。自宅に居た時の知人の面会がある。家族の協力を得ながら、お墓参りや選挙投票に赴いている。	現在はコロナ禍のため自粛しているが、以前は担当職員が利用者の希望を聞き取り、個別で馴染みの場所への外出支援が行われていた。知人や友人の面会も多く、馴染みの人との関係性が途切れないよう継続されていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格を把握し、良い関係性を保つよう職員間で情報交換し支援している。また、孤立する利用者がないよう配慮している。食席を調整したり、同じ活動等良好な関係を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所したり、入院者についても、その後も職員や利用者が面会に行き、築いてきた関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族から意見や希望を聞き、入居前の生活歴等の情報を収集し、把握に努めている。意思疎通が困難な方には、家族と相談し同意を得て本人本位にケアを行なっている。	本人との日々の関わりや家族との会話の中から、思いや意向の把握に努めている。日頃の状況や経過記録の情報をもとに「アセスメント要約表」を作成し、課題や援助内容を吸い上げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等については、家族からの情報収集を行い、今までの生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態・生活リズムを把握し、一人ひとりが自分の出来る能力に合わせた作業や活動を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見は面会時等に聞き、サービス計画に取り入れている。モニタリング・カンファレンスを行い、担当職員の意見も取り入れている。	介護計画の見直しは6ヵ月毎に行われている。定例会議において、モニタリング記載内容を再確認し、職員間の情報共有を行っている。本人や家族の意向を確認し、状態変化があればその都度介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人の経過記録・日誌等の記録をし、情報を共有して実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズを把握し、職員間で連携し合い、個人を尊重しながら柔軟なサービス提供を目標としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(ゴミ収集・ねふた・田んぼアート)で参加している。2ヶ月に1度、運営推進会議に出席して頂いた民生委員の方に施設の様況・運営方針を報告している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望の利用者は、継続して受診し、協力医院の往診や受診も行い、指示・助言を受けている。また、病状の変化があれば、より適切な医療を受けられるよう家族と相談しながら支援している。	入居前からの「かかりつけ医」へ継続して受診ができる体制である。受診の付き添いは職員が支援し、家族との受診結果に関する情報共有も密に行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は非常勤で勤務、2週間に1度の訪問看護による看護師も来園され、健康管理に努めている。その都度、状態報告を行い密に連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療出来るように、また、出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、情報提供している。また、病院とこまめに連絡を取り合い、早期退院に向けての関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今現在、終末ケアにおける体制を事業所としてはとっていない。入居する際に重度化や終末期の対応について説明している。重度化が進むにつれ、家族と相談しながら、本人にとってより良い施設を捜して支援している。	重度化した場合や終末期支援について、入居の際から本人・家族と話し合いの機会を設けている。地域特性や事業所の体制を共有し、現状はどこまで支援ができるのか、その都度見極めを行っている。これまで看取りの実績はないが、事業所ができることを説明しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、急変や事故発生時の対応方法を、内部研修等を行い理解している。応急手当の方法や通報訓練を定期的に行い、実践出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施、台風水害や夜間火災を想定した訓練もっており、訓練は常に必要と感じている。地域の消防団に訪問して頂き、利用者の様子や状況を見て貰い、災害時の注意点等指導して頂いている。	消防署と連携し、避難訓練を年2回実施している。職員のみならず、地域住民や消防団が訓練に参加する等、協力体制が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室のドアは閉めておくように配慮してる。排泄の際は、自尊心を考慮した声掛けを行い、必ずドアは閉めている。	排泄の失敗等で支援が必要な際には、さりげない対応・関わりを意識し、羞恥心に配慮している。誇りやプライバシーの確保について、日常的な確認を行うことで、事業所内の風土作りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	軽作業・活動への参加・決め事は、入所者と話し合い、自己決定を促す場面作りを行っている。		
38		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者のペースに合わせ、生活して頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な業者来園での散髪を行い、希望に沿った髪型に出来るよう支援している。化粧する方は、自らして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜・収穫した野菜の処理や材料の下ごしらえをはじめ、下膳や茶碗拭きも一緒に行う。毎食前に口腔体操を実施している。個々の好みや禁食・摂取量・能力を把握し、安全に配慮している。	毎食前に「口腔体操」を行うことで、嚥下・咀嚼機能の維持に努め、食事が楽しめる雰囲気づくりに繋げている。また、利用者がそれぞれの能力に合わせた下ごしらえ・後片付けを行える環境を作り、食事への関心を高めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を目指し提供している。水分は、好みや体質に合わせて随時提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後、口腔ケアをしている。自分で出来る方は、声掛け・見守りを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パターンを把握する事で失禁が減り、リハビリパンツから布パンツと尿取りパットへと変わった方もいる。排泄チェックシートを利用し、個々の排泄パターンを把握し、随時トイレ誘導を行う等、常に自立に向け工夫している。	「排泄表」を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。利用者の排泄サインを把握・共有し、トイレへ誘導することにより、排泄の失敗やおむつの使用が減った事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜をメニューに多く取り入れている。水分補給と適度な運動を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴剤を入れ香りを楽しんでいる。また、季節毎にりんご・ヒノキ風呂も行い、気持ち良く入浴出来るよう支援している。多様な利用者からの希望や状況に対応している。	週2回(火・金)の入浴機会を基本としながらも、希望時間を本人へ確認し、相談に応じている。また、利用者1人ひとりの「お湯の温度」や「浴槽に浸かる時間」の好みを把握し、個々に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調を見ながら運動や外気浴を行い、好きな歌やラジオ・お茶を楽しむ。時間に囚われずに休息して頂いたり、安眠に適した温度管理に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的などは声掛けし、一部の入所者はは理解出来ているが、全ての副作用や用法等を理解するのは難しい。しっかり服用した事を確認している。症状の変化を見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味の把握に努め、役割や嗜好品について理解し、楽しみや余暇活動に生かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	冬季以外は、園庭に出る時間を作っている。個人の要望を聞き、家族の了解を得て、食事を兼ねたショッピングや近隣の公園等にも行っている。また、高齢等遠出が難しくなった利用者には、近場で楽しめるよう対応している。	現在はコロナ禍のため自粛しているが、以前は食事を兼ねたショッピング等、個々の希望に合わせた外出支援が行われていた。現在は密にならないよう配慮し、職員と一緒に敷地内庭園を散歩する等、外出機会が持てるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買い物などは、自ら支払い出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをしている入所者はいないが、遠方の家族と電話で話したりする機会を増やしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を保ち、ホールに写真や入所者と共に作成した壁画を掲示し、観葉植物を飾り、落ち着きのある空間作りをしている。全館履物なしで過ごせるよう、カーペットが敷かれ安全に配慮している。エアコン暖房を装備し快適に過ごせる。	園内はすべてカーペットが敷かれている。靴を履かずとも移動できる環境により、安全かつ居心地の良い空間である。共用空間には加湿器・パネルヒーターが設置され、温度や湿度への配慮・工夫が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりテレビやラジオを聴いて過ごしている。ホールでは、ソファー・食卓椅子や窓辺の椅子に座り、思い思いに会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より持参された家具・ラジオ・テレビを居室に置き、使い慣れたものを使用し、落ち着いて過ごせるよう工夫している。居心地良く過ごせるよう、各所に温度計・湿度計を設置し、チェックし対応している。	持ち込みに制限はない。本人・家族と相談しながら、馴染みのある家具の持ち込みや配置場所について工夫を行っている。本人が居心地よく過ごせるよう、その人らしい居心地の良い居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室には、目印となるプレートを設置。床には余計なものがない様な状態で安全に配慮している。個人によっては、解り易い居室にするために、目印をつけて対応している。		